

■阿倍仲麻呂 留学生として入唐、唯一の日本人官僚として生涯を唐の朝廷に捧げ、その学識・文才が広く知られた。

あべのなかまる

不比等確立・698= 生。中務大輔船守の子。氏名は安倍にも作る。

持統天皇没・702= 4歳：

元明天皇即位 707= 9歳：

平城京遷都・710=12歳：

光明子入内・716=18歳：遣唐留学生に選ばれ、吉備真備や僧玄昉とともに、
行基活動禁圧 717=19歳：多治比真人県守を遣唐押使とする*遣唐使に従って入唐した。

藤原不比等没 720=22歳：
初め唐の太学に入り、科挙に登第、左春坊司経局校書をふり出しに左拾遺、左補闕などの官を歴任した。長く唐にとどまり、唐名を朝仲満、朝衡、晁衡という。

・・・・・・ 725=27歳：

長屋王の変・729=31歳：

風土記完了・733=35歳：*入唐した遣唐使とともに帰国することを上請したが許されず、儀王(玄宗の子、李口)の友に任ぜられた。
・・・・・・ 734=36歳：真備・玄昉は年末に帰朝。またその遣唐使判官平群広成によると、広成の乗船は毘番に漂着、苦難の末に
真備玄昉帰国 735=37歳：唐に帰った時、仲麻呂に会い渤海路をとって帰国することを上奏し、許されたという。

藤原四卿没・737=39歳：

大仏造立の詔 743=45歳：

大仏開眼・・ 752=54歳：入唐した遣唐使藤原清河、吉備真備らと帰国することを願い出て許可され、
・・・・・・ 753=55歳：*遣唐大使藤原朝臣清河らと延光寺で鑑真に会い、鑑真一行らをも伴って蘇州より出航したが、仲麻呂の乗った清河の船は安南に漂着、苦心の末長安に戻った。なお彼の望郷の歌として有名な、「天の原ふりさけみれば春日なる三笠の山に出でし月かも」は、この年仲麻呂が唐を離れるに際して詠んだとする説がある一方、長安での望郷歌とする説や、古歌を後人が仲麻呂に付会したとする説もある。

聖武天皇没・756=58歳：
玄宗に仕え、安史の乱の後、右散騎常侍・鎮南都護・安南節度使などとなったが、

・・・・・・ 761=63歳：

この間、衛尉少卿、秘書監、衛尉卿などの官に任ぜられている。安史の乱後、左散騎常侍、鎮南都護、安南節度使となったが、

宇佐八幡神託 769=71歳：
称徳天皇没・770=72歳：*長安に没した。?州大都督の官が贈られている。
唐の官人として活躍した異民族出身者は多いが、日本人として唯一の例といえ、その学識・文才は、吉備真備のとともに、唐で評判になった。王維、李白らの中国文人とも交遊があつて、それぞれ関係の詩が残っている。